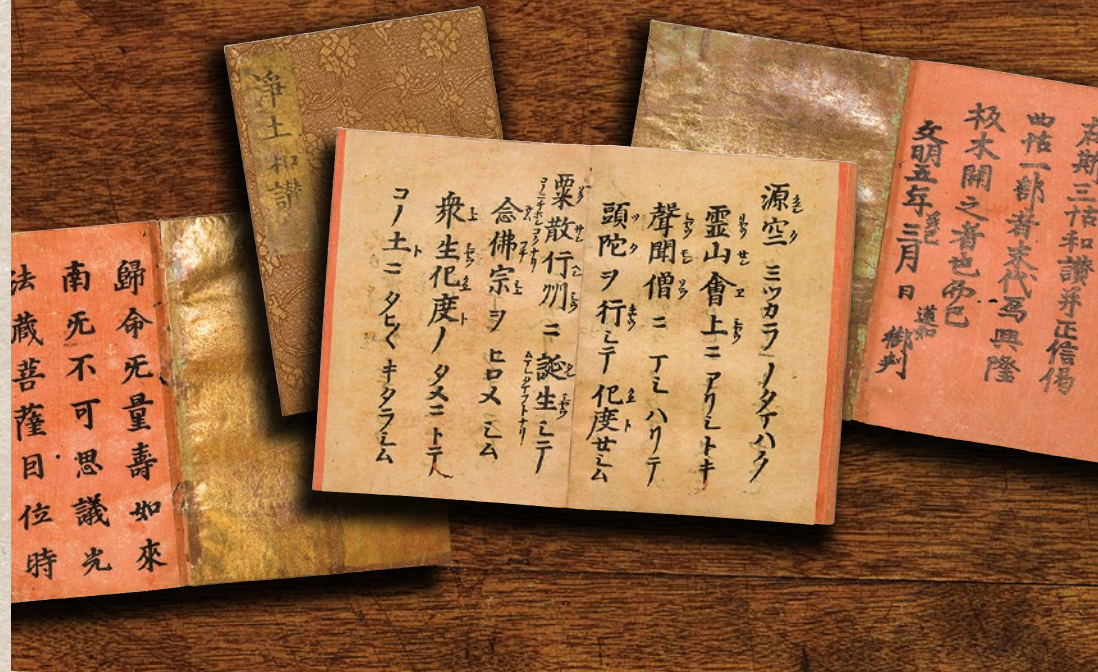


書物工芸

— 柳宗悦の蒐集と創造 —

日本民藝館



書物工芸

―柳宗悦の蒐集と創造

読むからにはまた持つからには、最もよき本文と書体と装幀と紙質とを選ぶべきではないか。

柳宗悦「色紙和讃に就いて」1947年

日本民藝館の古典籍（主に江戸時代までの書物）コレクションは、創設者・柳宗悦（1889〜1961）蒐集による、柳文庫の蔵書が中心となっています。その特色を二つ挙げるとすれば、第一には民画としての魅力に溢れた挿絵本（室町時代の卷子本や江戸時代の冊子本など）が挙げられます。そして第二には、晩年に「仏教美学」を提唱した柳らしく、仏教関係の書物、とりわけ庶民仏教といえる浄土門の經典類が充実していることが挙げられます。本展は柳文庫の古典籍から、挿絵本と浄土教の聖教を軸に、海外の貴重本を交えてご覧いただく展覧会です。

併せて、自著をはじめ柳が装幀に関わった多くの書物を展示致します。これらの書物は文献としての価値を備えていることはもちろん、冒頭に挙げた柳の言葉のように、工芸品と呼ぶに相応しい体裁の造本が目指されています。柳が蒐集し創造した「書物工芸」の数々をご高覧下さい。

日本民藝館

「創造」雑誌『工藝』

1931年創刊の『工藝』は、柳を中心に編集刊行された雑誌で、柳が見い出した工芸品が次々に特集された。装幀は年度ごとに大きく改変され、第1年の表紙は染色家の芹沢銈介による型染布で、1年12冊を収める帙も作られた。本文余白を飾る小間絵は芹沢をはじめ富本憲吉、河井寛次郎、棟方志功らが担当し、図版の印刷方法や活字の組み方にも工夫が凝らされている。初年度の本文用紙は洋紙であったものの、2年目以降は手漉和紙で、まさに雑誌自体が一つの工芸品というような体裁となり、1951年までに全120号が刊行。44号（1934年）では、書物工芸が特集されている。



「創造」私版本・装幀

「正しい造本の道は今のところ私版本によるより仕方ない」――柳が私版本を多く試みたのは、商業出版による制約を受けずに、書物に相応しい装本を得るためであった。表紙には堅牢な皮革や布、厚手の和紙が、本文には艶のある雁皮紙など「本に調和する材料」が吟味された。一般に装幀は表紙の意匠と考えられがちであるが、柳の造本では全体を考慮した装幀が意識され、大きめの活字と広い余白、小間絵も多用された。また芹沢の型染表紙や工芸家・鈴木繁男の絵漆表紙（図39、40）は、柳の造本を特徴付けている。



1. 『工藝』帙

- (i) 第6巻用（型染 芹沢銈介 1937年
- (ii) 第8巻用（型染 芹沢銈介 1939年頃

2. 『工藝』

- (i) 第65号 1936年 日本民藝協会
並製・布装（表紙）柳悦孝工房製布
〔表紙型染装幀〕芹沢銈介
- (ii) 第81号 1937年 日本民藝協会
並製・紙装（表紙）駿州朝比奈紙
〔表紙絵漆装幀〕鈴木繁男
- (iii) 第54号 1935年 日本民藝協会
並製・布装（表紙）遠州袋井産葛布
- (iv) 第59号 1935年 日本民藝協会
並製・布装（本文紙）野州烏山紙
〔実物添付〕武州小川産瓜文様紋紙
- (v) 第100号 1939年 日本民藝協会
並製・紙装（表紙絵漆装幀）鈴木繁男
- (vi) 第1号 1931年 聚樂社
並製・布装（表紙型染装幀）芹沢銈介

3. 私の念願（特装本）

- 柳宗悦著 1942年 不二書房
上製・布装 限定100部
〔表紙〕外村吉之介作葛布
〔本文紙〕和紙

4. 工藝の美（雁皮本）

- 柳宗悦著・装幀 1942年 私版本
上製・布装 限定60部
〔表紙〕外村吉之介作経緯縹紅柄染布
〔本文紙〕雲州岩坂産純雁皮紙

5. 蒐集に就て

- 柳宗悦著・装幀 1933年 私版本
袋綴紙紐結び装（雁皮本） 限定15部
〔表紙〕雁皮紙
〔本文紙〕雲州岩坂産和紙
〔三極本〕 限定20部
〔表紙〕三極紙
〔本文紙〕雲州岩坂産黄染和紙

6. キルヤム・ブレイク書誌（革紺紙装本）

- 寿岳文章編 1929年
ぐろりあそきて 上製・半革装 限定180部
〔表紙〕革・紺紙〔装幀意匠〕柳宗悦

7. 『ブレイクとホキットマン』1、2号

- 柳宗悦・寿岳文章編 1931年
同文館 糸綴装 限定500部
〔表紙・扉〕柳宗悦意匠、黒田辰秋木版
〔本文紙〕越前産別漉艶無鳥の子紙

8. 美と模様

- 柳宗悦著・装幀 1942年 私版本
上製・紙装 限定200部
〔表紙〕陸前柳生産紙子紙、静岡市紺永による正紺染
〔本文紙〕野州烏山産手漉緒紙

9. 芭蕉布物語

- 柳宗悦著・装幀 1943年 私版本
上製・紙装 限定25部
〔表紙〕陸前柳生産紙子紙、鈴木繁男創案紅柄染
〔本文紙〕武州小川産手漉和紙

10. 茶道を想ふ

- 柳宗悦著・装幀 1936年 私版本
上製・布装
〔本文紙〕雲州岩坂産安部采四郎作純緒紙
〔茶染雁皮紙布表紙本〕 限定25部
〔総雁皮紙布表紙本〕 限定75部

〔蒐集〕
挿絵本

柳文庫の挿絵本は、室町時代から江戸時代初期にかけて作られたお伽草子を題材にした、素朴な筆致が魅力の絵巻(図37)や、江戸時代前期に刊行された版本で、墨摺の挿絵に丹(赤)、白緑、黄土などで彩色した丹緑本(図11、15)が主要なものである。そのほか技芸の伝書(図19)、工芸や茶道に関する書物(図16)にも挿絵本が見受けられる。

これらの蒐集は、もとより絵画としての魅力に重点が置かれたものであるが、柳が古典籍の装幀を「健牢を旨とした綴じ、糊附け、形などから、必然に生れた」と評しているように、造本についても見るべきものは多い。また、図18や37のように、柳の装案に基いて改装されたものもある。



11 丹緑本 曽我物語

12冊 紙本墨摺淡彩 袋綴装
江戸時代 17世紀前半

源頼朝が建久4年(1193)に催した富士巻狩の際に、父の仇・工藤祐経を討った曾我五郎・十郎兄弟の仇討ちを題材とした物語。本書は寛永年間の整版本で、180図を超える挿絵には彩色が施されている。表紙は後補。

12 古郷帰の江戸咄

6冊 紙本墨摺 袋綴装
江戸時代 1687年(貞享4)

17世紀後半に刊行された江戸名所記の一つで、原装表紙の本書は地方出身者が江戸を見物する趣向。掲出場面は麻布にあった斧橋についての説話。



13 奈良絵扇面散画帖(扇の草子)

1帖 紙本着色 折帖装
室町時代 16世紀

扇の草子と総称される、和歌に対応する扇絵が描かれた書物。元は袋綴装の大型奈良絵本で、34紙が貼り込まれた現在の折帖装は近代の改装と思われる。洋画家の梅原龍三郎旧蔵。

14 武者陣立図

1帖 紙本墨印着色 折本装
江戸時代 17世紀

摺りの技法は版木一面を使う整版や絵活字で組んだものではなく、人物の印判を押印して行列図としたもの。四百人以上の武者たちは僅か十二個の印判で表される。



15 丹緑本 文正草子

3冊 紙本墨摺着色 袋綴装
江戸時代 17世紀

主人公文正が塩焼で長者となり、娘たちも良縁を持つという立身出世譚。小型のお伽草子絵巻・小絵の遺風を持つ横本で、原装表紙の美本である。国文学者で蒐書家の横山重旧蔵。

16 古今名物類聚 名物切之部

松平治郷著 2冊 紙本色摺 袋綴装 江戸時代 1791年(寛政3)

茶道具の解説集全18巻のうち名物製の巻で、著者は不昧の号で知られる江戸後期の大名茶人。茶道論も多い柳の蔵書。錯簡はあるものの色刷の美本。

17 十二段草子絵巻断簡

1幅 紙本着色 軸装
室町~江戸時代 16~17世紀



十二段草子(浄瑠璃姫の物語)は義経伝説の一つで、奥州へ向かう牛若丸と三河の国の浄瑠璃姫との恋愛譚。本図は物語後半、御座移りの段の場面の断簡で、画風は大東急記念文庫蔵大型奈良絵本「十二段草子」に近似する。

18 漢詩巻断簡(御家流墨蹟)

1幅 紙本金銀泥絵墨書 軸装(装案・柳宗悦) 江戸時代 17世紀

金銀泥で草花や雁の群れを描いた料紙に、散らし書きで漢詩が書かれる。前半は平安中期の漢詩人・都在中による「帰雁」、後半は中国唐代の詩人・銭起による七言絶句「帰雁」の後半二句。柳は「御家流墨蹟」として表具案を施している。

19 魚鳥包丁切形

1冊 紙本着色 袋綴装 江戸時代



包丁道の故実集で、鯉・鯛・蛸など魚介類と、雉や鴨など鳥類の饗応料理の際の切り方が図示される。宗悦の父・檜悦蒐集の料理本のうちの1冊である。

20 八卦本

1帖 紙本墨摺 折本装
桃山時代 1611年(慶長16)

江戸時代初期に流行した八卦の占法を記した挿絵本。本書は寛永年間刊行の流布本に先行する慶長版で、陰陽が算木の符号で図示されている。

21 神仏図絵

1冊 紙本着色 袋綴装
明治時代 19世紀

前半は国常立命に始まる日本神話の神々など、中盤は神事の供物や、湯殿山、春日山などの聖地を、後半は釈迦をはじめとする諸仏や仏教の祖師などが描かれている。

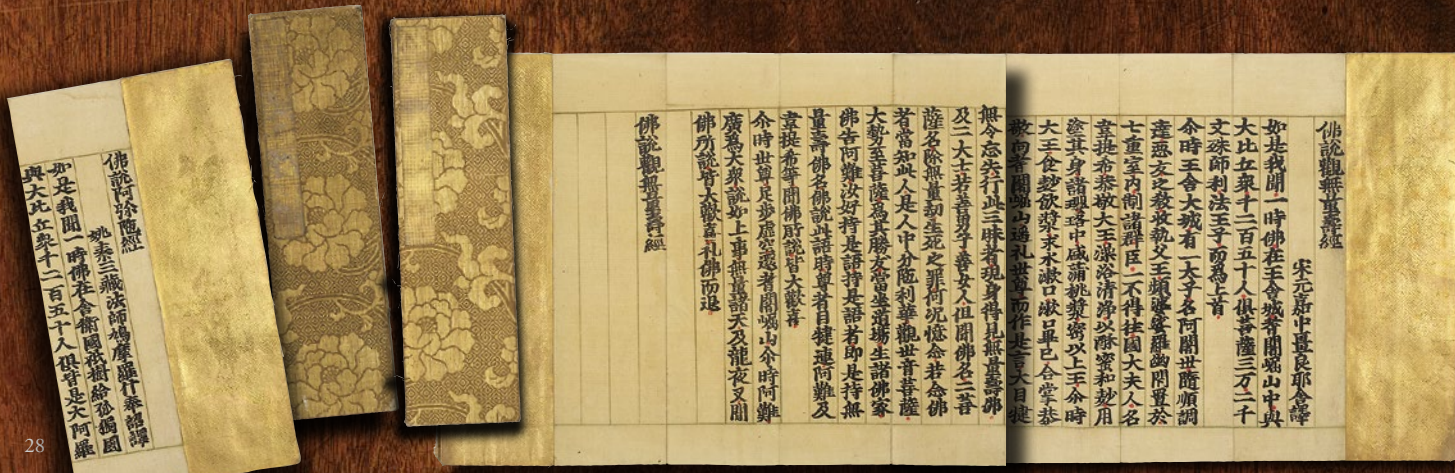
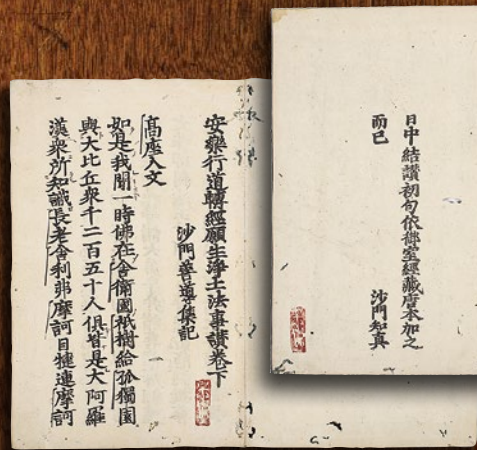
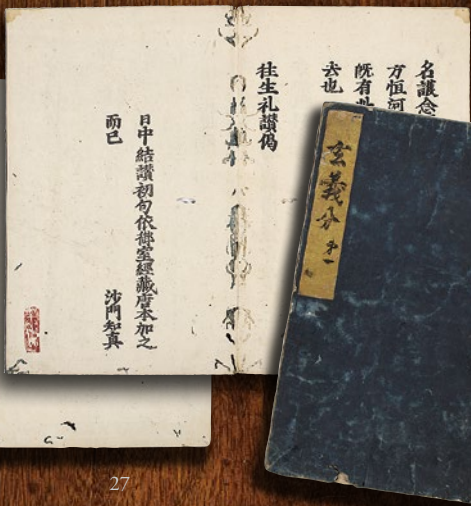
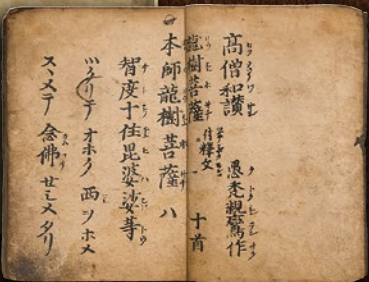
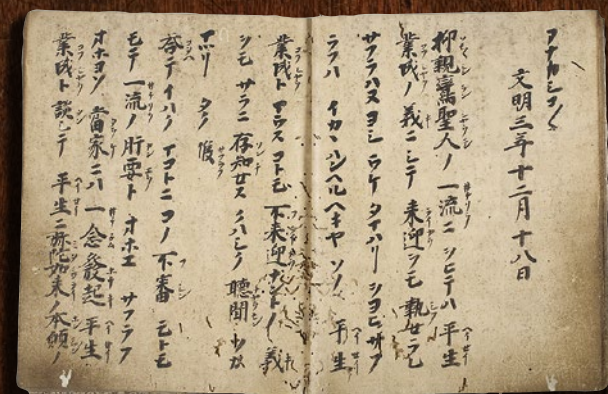
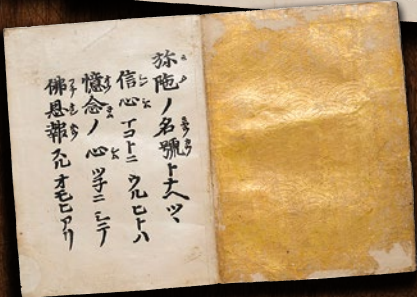
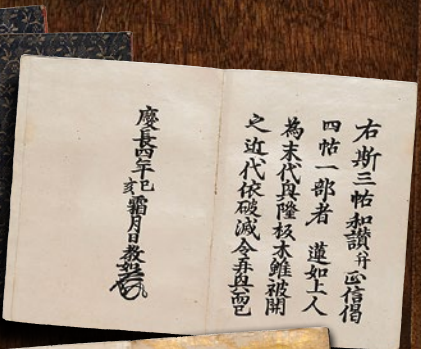
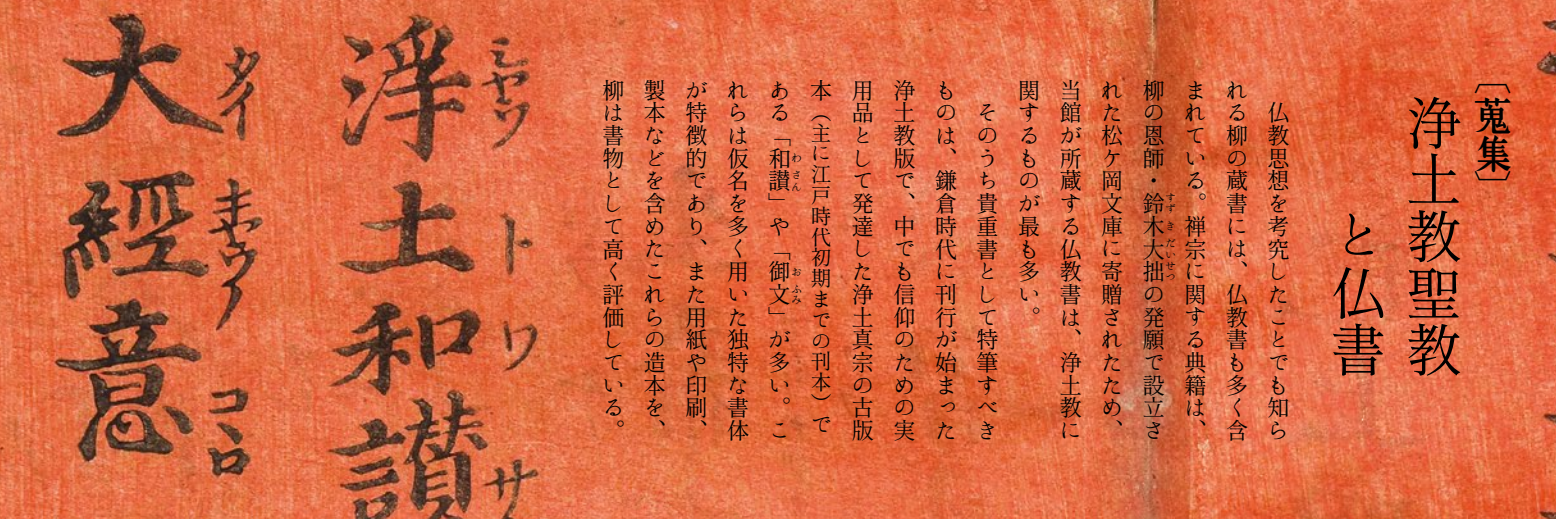


「蒐集」

浄土教聖教と仏書

仏教思想を考究したことも知られる柳の蔵書には、仏教書も多く含まれている。禅宗に関する典籍は、柳の恩師・鈴木拙拙の発願で設立された松ヶ岡文庫に寄贈されたため、当館が所蔵する仏教書は、浄土教に関するものが最も多い。

そのうち貴重書として特筆すべきものは、鎌倉時代に刊行が始まった浄土教版で、中でも信仰のための実用品として発達した浄土真宗の古版本（主に江戸時代初期までの刊本）である「和讃」や「御文」が多い。これらは仮名を多く用いた独特な書体特徴的であり、また用紙や印刷、製本などを含めたこれらの造本を、柳は書物として高く評価している。



22 三帖和讃・正信念仏偈

親鸞著 4帖 紙本墨摺 粘葉装
桃山時代 1599年（慶長4）

三帖和讃は、浄土真宗の宗祖・親鸞（1173～1263）の晩年の著作「浄土和讃」「高僧和讃」「正像末和讃」の総称。1473年（文明5）に本願寺中興の祖・蓮如（1415～99）が「正信偈」とともに4帖1部として刊行し、真宗宗典最初の刊行物となった。本書は教如（1558～1614）による開板。

23 高僧和讃

親鸞著 1冊 紙本墨摺
室町時代 1473年（文明5）

三帖和讃・正信念仏偈の初版4帖のうちの零本。高僧和讃は浄土教の先達への和語による讃嘆詩で、当初は粘葉装であったが使用により糊が外れ、現在は簡易な結び綴に改められている。

26 御文

蓮如著 実如筆 1冊 紙本墨書
袋綴装 室町時代

蓮如が門弟の要望に応え、浄土真宗の教義の要を平易に説いた手紙をまとめたもので、「御文章」ともいう。第9代宗主の実如（1458～1525）は、

（1133～1212）を師と仰いだ、天台僧の聖覚（1167～1235）の著書。親鸞が高く評価してしばしば書写し門弟に与えたことで知られる。途中の1紙12行と2紙24行および巻末を欠く。現在は改装後の結び綴装である。

25 選択本願念仏集（浄土教版）

法然著 2帖 紙本墨摺 粘葉装
鎌倉時代

法然の主著の一つ。浄土教版は、浄土教の勃興に伴い京都の知恩院を中心に刊行された書物で、胡粉を引いた純白の厚漉きの料紙に、漆黒の濃墨で両面に摺った後、二つ折りにして糊で綴じた粘葉装が多い。巻首右下に捺された蔵書印は陶芸家の富本意吉による陶印「宗悦」で、柳が晩年に多用した。

27 五部九巻（浄土教版）

善導著 9帖 紙本墨摺 粘葉装
室町時代

中国浄土教の祖師・善導（613～681）の著作「観経疏」4巻、「法事讃」2巻、「観念法門」「往生礼讃」「般舟讃」各1巻の5部を合計9巻としたもの。本書は、鎌倉時代末期に僧の知真が開版した五部九巻を、室町時代に覆刻出版したものと考えられる。

28 浄土三部経（浄土教版）

4帖 紙本墨摺 経摺装 室町時代

法然や親鸞が根本経典とした「仏説

無量寿経」（上下巻）「仏説観無量寿経」「仏説阿弥陀経」を纏めたもの。黄紙を糊接ぎした後に印刷して金の界線を引き、折り畳んで経摺装としている。

29 刺繡種子阿弥陀三尊図

1幅 刺繡 軸装
鎌倉時代 13～14世紀

30 御文（柳本御文集）

蓮如著 1冊 紙本墨書
室町時代 1522年（大永2）頃

研究者間で「柳本御文集」として知られる写本で、13通の御文を収録。筆者は不詳ながら、各通肩書の親本の出典により蓮如真蹟本を写したことが分かり、真宗研究において重要な写本であることが指摘される。現在は表紙を欠く仮綴じだが、綴じ穴からかつては袋綴線装本であったと推定される。

31 大般若経（春日版）

1帖 紙本墨摺 経摺装 鎌倉時代

春日版は、奈良の興福寺を中心に平安時代後期から出版された仏教書。鎌倉時代には大般若経六百巻という大部の出版も行われた。その残巻と伝えられる本書は、後世に卷子装を折り畳んで経摺装とされたもの。料紙は黄蘗染。

32 種子絵巻

1巻 紙本墨書 卷子装（装案・柳宗悦） 桃山時代 1603年（慶長8）

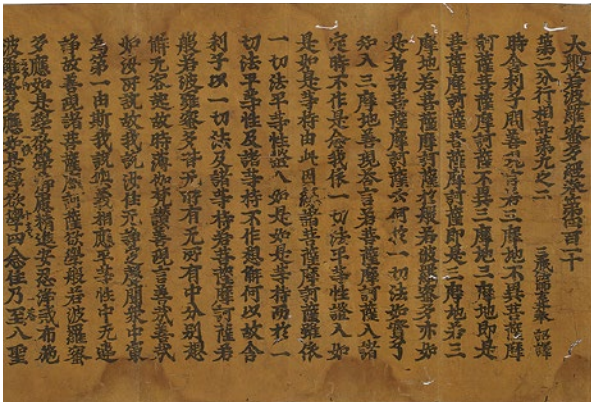
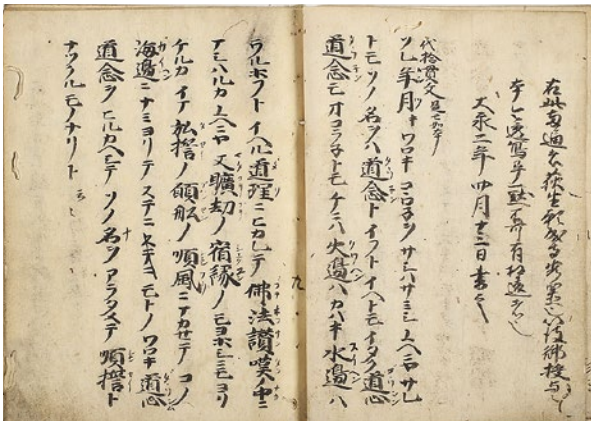
梵字の筆法の秘伝を示す、密教における伝授書である。種子の要所に朱線を引いてその意味を付し、後半には不動明王をはじめとする五大尊が描かれている。奥書には大日如來に始まる血脈相承が記される。

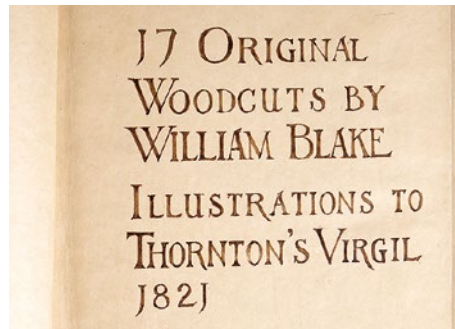


24 唯信鈔

聖覚著 1冊 紙本墨書
鎌倉～南北朝時代

絶対他力の浄土教を確立した法然





35. ヴァージル『田園詩』のための挿絵集より「枯れた作物」
ウィリアム・ブレイク 木口木版 1821 年
※ブレイクの挿絵を柳が貼り込んで制作した冊子で、下図は柳自筆の内題

33. 東覧図
1帖 紙本墨画彩色 折本装
朝鮮時代 18世紀



34. 絵本どんきほうて
巻子装(装案・柳宗悦) 1937年
3巻 紙本合羽刷筆彩
芹沢銈介



37. つきしま(築島物語絵巻)
二巻 紙本着色 巻子装(装案・柳宗悦) 室町時代 16世紀
和田岬の沖を埋め立て港を作る工事が難航したために、平清盛が人柱を沈め事業を成就しようとした物語。悲壮な筋書きに反し、挿絵は極めて大らかである。掲出場面は籠に人柱を入れて海に沈める日に、清盛や警護の者らが見守る中、主人公の一人名月女が籠の

出版の際、赤・黄に染めた厚手の料紙に別刷し、交互に重ねて製本した、いわば特装本である。刊本の色紙和讃としては最古で、当館本のほか富山・城端別院本が知られる。柳は浄土真宗の古版本の特質として、文字が大きく、片仮名を多用して句間を広く取り、独特な書体を使用したことを挙げているが、これらが美麗な料紙に摺られ、粘葉装で綴じられた小振りの本書を、日本で主流を占めていた漢式の造本から脱した「生粋の和本」として、極めて高い評価を与えている。

36. 色紙和讃(三帖和讃・正信念仏偈)
親鸞著 4帖 紙本墨摺 粘葉装
室町時代 1553年(天文22)



(表紙図版解説)

41. 『工芸』第67号
1936年 日本民藝協会 並製・布装
〔表紙布〕柳悦孝工房製葛布
〔表紙装幀〕芹沢銈介

39. 和紙の美
柳宗悦著・装幀 1943年 私版本
上製・紙装 限定20部
〔表紙〕陸前柳生産白紙子紙
〔題簽絵装〕鈴木繁男
〔本文紙〕武州小川産和紙

38. 絵本どんきほうて
芹沢銈介 1冊 紙本合羽刷筆彩 袋綴装 1937年 向日庵私版本
スペインの作家セルバンテスの小説「ドン・キホーテ」の蒐集家であるカール・ケラーと柳宗悦の交流を端緒に、英文学者で書誌学者・和紙研究家の寿岳文章の依頼で、芹沢銈介が製作。騎士のドン・キホーテは日本の武士として構成され、型紙を使う合羽刷で製作された。丹緑本を踏まえて手彩色された本書は75部の限定本で、表紙は鈴木繁男の技による漆字題簽と金箔散しの絵漆。この他表紙変りの無彩色本5部など全110部が刊行された。図34は彩色本を上回る極彩色で仕上げられた別刷りで、柳の装案による巻子装である。

中の父・国春と再会するところ。

〒153-0041 東京都目黒区駒場4丁目3番33号 電話 03-3467-4527 休館日 月曜 展示替期間、年末年始 交通 京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分 日本民藝館	書物工芸 — 柳宗悦の蒐集と創造 — 発行日 2018年7月3日 発行者 日本民藝館 編集 日本民藝館学芸部 印刷 アート印刷株式会社 題字 五部九巻(図27)より ©日本民藝館	※本冊子は、「書物工芸—柳宗悦の蒐集と創造」展(2018年7月3日~9月2日)の出品作品の一部を掲載したものです。会期中場面替えを行うため、掲載図版の場面が会場に陳列されていない場合があります。 ※執筆は白土慎太郎(日本民藝館学芸員)が担当しました。
---	---	--